

■佐藤一斎 儒学者。林家の塾長から昌平黌教授となり、門下から、幕末の多彩な俊秀を輩出し、“言志四録”を著した。

さとういつさい
田沼意次老中1772＝江戸の美濃岩村藩邸で、家老佐藤信由の次男に生まれる。幼名は信行、通称は幾久蔵。

曾祖父は藩校に招かれた儒者で、幕府にまで名が聞こえた人であった。

藩主松平乗蘊の三男で4つ年上の衡、_のちの林述斎とは兄弟のように、ともに勉学に励んで育ち、

・ ・ ・ ・ ・ 1781＝ 9歳：

幼少の頃から読書を好み、武術にもすぐれて、頭角をあらわした。

田沼意次失脚1786＝14歳：

異学の禁・ ・ 1790＝18歳：_岩村藩近侍に出仕するも、
混浴禁止・ ・ 1791＝19歳：_事件を起こして職を免じられたが、述斎の力添えで士籍を脱することは許される。
ヲクスマン来日・ 1792＝20歳：名を坦、字を大道、通称を冷蔵と改めて、大坂に遊学し、間大業から暦を、中井竹山から儒学を学ぶ。
松平定信引退1793＝21歳：
オランダ 正月・ 1794＝22歳：_江戸へ出て、林家簡順に入門。まもなく簡順が死去して、述斎が林家を継ぐと、師弟の礼をとる。

著名な儒者を訪ね歩いて議論しながら修練するうち、名が知られるようになり、

姫路藩主酒井率性に招聘され、

蝦夷地直轄始1799＝27歳：
伊能測量始・ 1800＝28歳：あるいは、平戸藩主松浦静山の招きで長崎へ行き、清国人学者と交わるなどしたことが、この頃の「僑居日記」に書かれている。

青洲麻酔手術1805＝33歳：*林家の塾長となって、安積良斎はじめ多くの門生の教育に当たり、真摯で懇切な教え方が評判になる。

フェートン号事件 1808＝36歳：

浮世床・ ・ ・ 1813＝41歳：_「言志録」の稿を起こし、

杉田玄白没・ 1817＝45歳：
水野忠成老中1818＝46歳：

伊能図完成・ 1821＝49歳：渡辺崋山「佐藤一斎像」成る。

シボゝ朴来日・ 1823＝51歳：この年まで「言志録」を書き続けて、
シボゝ朴鳴滝塾1824＝52歳：_「言志録」を刊行。

・ ・ ・ ・ ・ 1826＝54歳：*岩村藩老臣となり、藩政に関与。平戸・姫路藩等からも諮問を受け、名声高かまり、門弟が多くなる。

シボゝ朴事件・ 1828＝56歳：_続いて「言志後録」の稿を起こし、
シボゝ朴追放・ 1829＝57歳：「愛日楼文詩」刊行。

天保大飢饉始1833＝61歳：大塩平八郎に返信。門弟を婿に迎えて、林家の塾長とする。
高島砲術・ ・ 1834＝62歳：大塩平八郎に返信。
滑稽+人情本 1835＝63歳：

大塩平八郎乱1837＝65歳：

天保改革始・ 1841＝69歳：*述斎が死去、幕府の命で昌平黌の儒官となり、林家の後継者を差し置いて、官学の中心的役割を担う。

天保改革終・ 1844＝72歳：オランダの開国をすすめる国書に対し、返書を起草。
阿部正弘首座1845＝73歳：

尊徳報徳論・ 1851＝79歳：_この前後に「言志四録(言志録、言志後録、言志晩録、言志叢録)」完成。’少にして学べば、則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず。’
ペリー来航・ 1853＝81歳：ペリー来航に際しても、異国書翰和解用掛として、これにあたる。
安政の大獄・ 1859＝87歳：昌平黌官舎で、*没した。「言志四録」を刊行する際に立場を考慮して削ったものが「言志余録」として残る。
温厚篤実な性格で、弟子を公平に扱ったことから、その門下から安積良斎、渡辺崋山、山田方谷、佐久間象山、横井小楠、大橋訥庵、中村正直らの多彩な俊秀を出した。著書に前記の他「近思録」「伝習録」「論語」などの欄外書、「俗簡焚余」「初学課業次第」などがある。

足田啓佑「儒者」，「人づくり風土記(岐阜)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，日本の古典名著，